

カワヤツメ

Lethenteron japonicum (Martens)
ヤツメウナギ目・ヤツメウナギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内の一部の河川の、ごく限定された場所でのみ確認され、個体群がかなり小さい状況にある。河川改修により主要な生息場が極めて減少している。

分 布

北海道、茨城県以北及び島根県以北の本州に分布する。本県では、主要河川の上・中流域、湧水池に分布したが、現在では九頭竜川水系、南川等に僅かに生息する。

種の特徴

全長 40 cm。アンモシーテス幼生は、河川中流域の淵や下流の砂泥底でデトリタスや珪藻類等を食べ 3～4 年間生息後、海へ降河して 2～3 年後に産卵のために河川へ遡上する。河川中流域の淵尻や平瀬を産卵場所として利用する。

生息を脅かす要因

近年の河川開発にともなう流路の直線化による河床構造の単純化によって、幼生の成育場の喪失、土砂の流出にともなう産卵床の環境悪化によって、個体数が減少している。森林伐採による河川水温の上昇や湯水、水質汚濁等による生息環境の悪化がいちじるしい。

参考文献 環境省編 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○					○	○	○					○

アブラボテ

Tanakia limbata (Temminck & Schlegel)
コイ目・コイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本種の分布は本県が日本海側の北限に当たり分布上重要。以前は敦賀市以西に広く生息していたと思われるが、現在は生息地の消滅や分断により、生息数も減少傾向にある。安定した生息地は少ない。

分 布

福井県と濃尾平野以西の本州と四国の瀬戸内海側、九州北部に分布する。本県では敦賀市以西が自然分布。なお、越前市には移入されたものが生息する。

種の特徴

全長は 5 cm。やや長い口髭があり、側線は完全。体色は黄褐色で成熟したオスは全身が黒く色付く。平野部の水がきれいな河川や水路の流れの緩やかな水域に生息する。食性は雑食性で底生動物や付着藻類を食べる。産卵期は春～初夏で中型の二枚貝を好む。

生息を脅かす要因

圃場整備や河川改修工事等による生息環境の破壊・消失と、産卵母貝である中型の二枚貝（ドブガイ・マツカサガイ等）の減少が主な要因と考えられる。一部の地域ではオオクチバス・ブルーギルによる捕食の影響も大きい。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)、斉藤・川崎 (2015)、黒澤 (2009)、石津 (2007)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○	○						○					

アジメドジョウ

Niwaella delicata (Niwa)
コイ目・ドジョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

ダムや砂防堰堤等の工事で本種の生息環境が悪化し、生息地・生息数とも減少傾向にある。

分 布

中部地方～近畿地方にかけて分布する。本県での分布は九頭竜川・河野川・笙の川水系で生息が確認されている。比較的水量の豊富な河川の上流～中流域の砂れき部に生息する。

種の特徴

全長 8 cm。体形は細長く、背鰭・尻鰭は体の後方にある。口は下面にあり吸盤状の唇を持つ。口髭は短く 3 対。河川の上流～中流域の早瀬～平瀬に生息し、岩やれきの付着藻類を主に食べる。

生息を脅かす要因

生息域の上部で河川工事等による泥水で付着藻類が泥をかぶり、生息数を減らす。また、川底のコンクリート化による生息環境の破壊も大きな要因と考えられる。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)、斉藤・川崎 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○	○	○	○	○	○			○	○	○